

平成 28 年度長崎大学がんプロ養成基盤推進プラン離島・僻地病院実習

実習生：大畑 直子

実習先：国民健康保険平戸市民病院

実習期間：平成28年9月5日（月）～ 9月16日（金）

実習生感想：

地域におけるがん看護のあり方を学ぶために、国民健康保険平戸市民病院で2週間実習させていただきました。

平戸市は九州本土と平戸大橋でつながる最先端に位置し、佐世保市から25kmの位置にあります。人口は1970年の55661名から2010年は34916名まで減少し、65歳以上の高齢化率は33.2%で年齢別の人口分布では全国と比較すると若年層と高齢者が逆転している状況にあります。

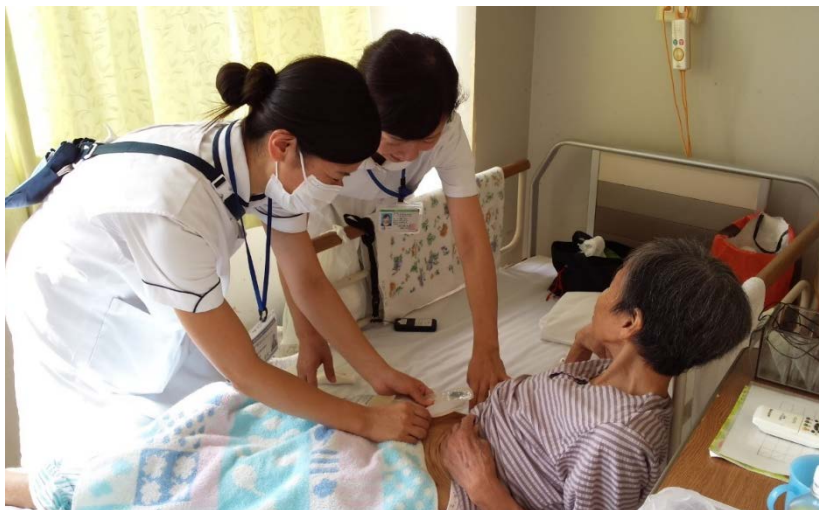


押淵院長先生からは、平戸市民病院の歴史と、約30年前からその当時にはあまり行われていなかった訪問診療や予防医療の普及のために地域に出向いての健診の取り組みなど、熱い思いをもって活動されていたことを聴くことができました。その長年の取り組みで平戸市の健診普及率は上昇し、低かった平均寿命も長崎県平均に並ぶところまできたそうです。現在の高齢社会において、国は地域包括医療を推し進めていますが平戸市ではすでに行われていたこととなります。

110床の病床は一般病棟、療養病棟に分かれており疾患も内科、外科混在していました。その中で化学療法を受ける患者を受け持ち、退院調整カンファレンスに参加、褥瘡やストーマの管理についてスタッフからのコンサルテーションを受け、ケアを実践しました。訪問看護では膀胱がん術後で管理困難なウロストミー患者、90歳代の独居の女性の見守り、神経難病の寝たきり患者の褥瘡ケアに同行しました。島内北から南まで少ないスタッフで訪問する現状に地域医療の厳しい一面もあります。しかし高齢者の増加に伴い、地域でも都

心部でもがん患者は増え、がんの治療を受けながら地域で生活している患者も多く、意思決定の支援、看取りのケアまで格差のない医療の提供が必要であることも実感しました。

【ストーマケア】



【創傷・褥瘡ケア】



【退院調整カンファレンス】



病院の基本理念に「地域とのふれあいを大切に地域に愛され信頼される包括医療の実践」
とあります。先生方、医療事務、看護スタッフの皆さんは忙しい業務の中で、疾患だけ
ではなく患者を取り巻く生活環境にまで考慮した対応で、患者と会話を多く持ち必要な情
報を得て、患者が安心する声かけをされていました。また職種を超えたスタッフ間のコミ
ュニケーションもスムーズな診療につながっていることを感じました。

今回の実習は台風12号の接近で始まり、台風16号の接近で終わりました。いろいろな面
で不安も多かったのですが、なんとか無事に終わることができました。平戸市民病院の皆
様と実習を企画・運営して頂いた長崎大学大学院がんプロの関係者の皆様に心から感謝申
し上げます。本当にありがとうございました。





実習報告会にて